

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 1年次	科目のねらい				
授業科目	精神看護学概論	単位 1単位	人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための、看護の役割について学ぶ				
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間	精神の健康と精神障害者の歴史と法制度を学ぶ 対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解する				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる						
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる						
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる						
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる						
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目	
	1	社会情勢から精神医療を考える	精神看護学とは何か 日本における自殺問題とメンタルヘルス 日本の精神科医療の現状 精神科医療のニーズ	講義	長嶺 洋子	基礎分野 心理学 文化社会学	
	2	精神保健の考え方	精神障害の体験と精神看護 精神の健康の概念 精神保健の一次予防・二次予防・三次予防	講義		専門基礎分野 公衆衛生学 社会福祉 I 社会福祉 II 関係法規 I 関係法規 II	
	3	なぜ精神保健について考えるのか	社会状況からそれぞれテーマをもって発表する	発表		関係法規 II	
	45分	4	心のはたらきと心の仕組み	意識・感情・学習と行動・知能 パーソナリティとは	講義		専門分野 看護学概論 共通看護技術 I 家族看護論
	5	自我の防衛規制	意識と無意識 自我の防衛機制	講義		成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論	
	6	ストレスと心の危機	心身の健康に及ぼすストレスの影響 ストレスとストレスコーピング	講義		母性看護学概論 精神援助論 I 精神援助論 II 精神援助論 III	
	7	ライフサイクルとアイデンティティ	心の危機 ライフサイクルにおける危機 ライフサイクルとアイデンティティ	講義			
	8	関係の中の人間	システムとしての人間関係 全体としての家族 グループ	講義			
	9	精神障害・医療の変遷	精神障害の治療の歴史 西洋・日本 精神障害と文化・社会学 治療の変遷と法制度の変遷	講義			
	10	現在の法律と制度	精神障害と法制度 精神保健福祉法 障害者総合支援法 精神科領域で必要な法律と制度	講義			
	11	精神看護で考える対象となる人々	精神疾患・身体疾患から精神的ケアの必要な人	講義			
	12	精神障害者の人権について考える	知的・身体・精神の障害 社会の見方 偏見・差別・スティグマ 精神科看護師の倫理綱領				
	13	セルフコントロール	ヨガ	講義・演習	井上 麻子		
	14	音楽療法	呼吸法や身体の動かし方 音楽療法の意義・効果 音楽の効力と音楽療法の実践	講義・演習	清水 真理子		
	15	音楽療法					
16	終講試験	筆記試験					
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院						

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論 I	単位 1単位	主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療について学ぶ 精神障害者にかかわる職種の役割や機能について学ぶ			
担当講師	杉林 稔 医師臨床経験:10年以上	時間数 20時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	精神障害の分類と診断 生物学的側面	精神障害の診断と疾病分類 ・DSM ICDの分類 ・生物・心理・社会モデル 生物学的	講義	杉林 稔	基礎分野 心理学
	2	精神科における検査	知能検査 代表的な知能検査 ウェクスラー式知能検査 田中一ビネー知能検査V 新版K式発達検査 人格検査 ミネソタ多面人格目録検査 YG性格検査 SCT 絵画欲求不満テスト TAT ロールシャッハテスト 描画法	講義	杉林 稔	専門基礎分野
	3	主な症状1	1思考の障害とは 思考の障害:思考形式の障害、思考内容の障害 観念奔逸・支離滅裂・思考途絶・連合弛緩・作爲思考 妄想の種類 2感情の障害 気分の障害 感情の興奮性の異常 感情調節障害、感情体験様式の異常、病的感情	講義	杉林 稔	専門分野 精神看護学概論 精神援助論II 精神援助論III
	4	主な症状2	3意欲の障害 意欲とは 混乱、行動誓詞、被暗示の亢進 抑制消失、社会的引きこもり 4知覚の障害 ・知覚の障害:知覚の質的な障害・量的な障害 知覚の変容、幻覚	講義	杉林 稔	
	5	主な症状3	5意識の障害 意識とは 意識混濁・意識狭窄・意識変容 6記憶の障害 記憶の分類 記憶の障害:記銘の障害、再生の障害 7パーソナリティとその障害 性格、意識の分類・人格の障害	講義	杉林 稔	
	6	精神疾患の成因・症状 特徴・経過・治療1	1統合失調症 2気分障害 双極性障害及び関連障害群、抑うつ障害群 3神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 恐怖症性不安障害、強迫障害、重度ストレス障害及び適応障害 解離性障害、身体表現性障害	DVD 講義	杉林 稔	
	7	精神疾患の成因・症状 特徴・経過・治療2	4精神作用物質使用による精神及び行動の障害 アルコール症 アルコール以外の精神作用物質使用による精神及び行動の障害 ゲーム・ギャンブル依存症 5発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 知的能力障害、てんかん、発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害(A群、B群、C群) 6認知症の周辺症状 認知症、せん妄等 7その他 睡眠障害、性別違和、症状精神病、心身症	講義  DVD	杉林 稔	
	8	精神科での治療1	精神療法 個人療法、集団精神療法、家族療法 薬物療法(目的、薬理作用、作用機序、有害反応)	講義	杉林 稔	
	9	精神科での治療2	向精神薬 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 抗不安薬 睡眠薬 抗酒薬 精神刺激薬 電気けいれん療法 環境療法・社会療法	講義	杉林 稔	
	10	精神科での関連する職種	医師、精神保健指定医、MHSW、臨床心理士 作業療法士、音楽療法士他	講義(45分)	長嶺洋子	
11	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(10割) 杉林講師90点 長嶺教員10点 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院 看護学テキスト 精神看護学II 地域・臨床で活かすケア 南江堂					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅱ	単位 1単位	精神障害者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ 状態に応じて自立を支援出来るような援助方法を学ぶ 精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶ			
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	ケアの人間関係	ケアの原則と方法	講義	長嶺 洋子	基礎分野
	2	プロセスレコードの実際	関係アセスメント 患者―看護師関係における感情体験	ワーク		
	3	回復を支援する 精神看護における技法	リハビリ さまざまな回復プログラム ・SST CBT 当事者研究 マインドフルネス セルフヘルプグループ、カウンセリング プロセスレコード、リラクゼーション、コーチング	講義	長嶺 洋子	専門基礎分野
	4	地域での支援	障害者総合支援法に基づくサービス 地域における生活支援の方法 ・自己決定 システムと社会資源 地域における精神障害者のニーズ	講義	久米光太郎	
	5	地域におけるケアと支援	地域におけるケアの方法と実際 ・ストレングスマodel アウトリーチ 多職種連携 学校及び職場におけるメンタルヘルス	講義	久米光太郎	専門分野 看護学概論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅲ
	6	入院治療の意味	精神科受診から入院・退院へ向けて 入院形態 治療的環境 入院中の観察、ケア、退院支援	講義	久米光太郎	
	7	身体をケアする	精神科における身体ケア 身体合併症	講義	長嶺 洋子	
	8	治療に伴う身体へのケア	精神科の治療に伴う身体へのケア 薬物療法 修正型電気けいれん療法	講義	長嶺 洋子	
	9	安全を守る	リスクマネジメント:行動制限 隔離と身体拘束 緊急事態:自殺 暴力 無断離院 緊急事態のスタッフ支援	講義	長嶺 洋子	
	10	リエゾン精神看護	リエゾン精神看護と活動の実際 看護師のメンタルヘルスの支援	講義 (45分)	長嶺 洋子	
	11	症状・状態別看護	せん妄、不安のある患者の看護		久米光太郎	
	12		幻覚・妄想のある患者の看護		久米光太郎	
	13		攻撃的行動・混迷状態・睡眠障害のある患者の看護 多飲症にある患者の看護 引きこもり状態にある患者の看護		久米光太郎	
	14		気分障害の患者の看護 脅迫性障害のある患者の看護		久米光太郎	
	15		発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害の患者の看護 クライシスプラントについて		久米光太郎	
16	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(9割) プロセスレコード(1割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 看護学テキスト 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 南江堂					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅲ	単位 1単位	精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養う			
担当講師	長嶺 洋子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	対象のとらえ方 情報の整理とアセスメント	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論	講義	長嶺 洋子	基礎分野 心理学 文化社会学
	2	情報収集と整理	情報の収集 ・生活歴、発症から入院まで、受け持ちまでの経過 ・カテゴリーにおける情報の整理 ・事例の考え・思いを知る	講義 ワーク	長嶺洋子	専門基礎分野 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	3	情報アセスメント	各カテゴリーの情報整理とアセスメントの実施	講義 ワーク	長嶺洋子	
	4	情報アセスメントとセルフケアレベル	情報アセスメントからセルフケアレベルを考える	講義 ワーク	長嶺洋子	
	5	援助の実践	自分たちの考えた援助を実践する 対象のセルフケアレベルや考え・思いを尊重した援助	演習	長嶺洋子	専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ 看護の思考過程 家族看護論 精神看護学概論 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ 医療安全
	6	必要な看護と社会資源の活用	対象のセルフケアレベル、思いや考えを尊重した 今後に必要なと考える社会資源の活用 連携していく多職種	講義 ワーク	長嶺洋子	
	7	当事者の体験	断酒会の方との語り ・飲酒のきっかけ・診断を受けるまでの生活 ・診断前・中・後の家族との関係性や実際 ・診断後の経過や社会との繋がり ・その人にとっての断酒会の意義	演習	断酒会	
8	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(4割) レポート(6割の内当事者との演習1割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 看護学テキスト 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 南江堂					